

(法第10条第1項第7号)

## 平成29年度の事業計画書

### NPO 法人犬と猫のためのライフポート

#### 1 事業実施の方針

①の事業では、犬猫合計1,300頭以上を引き取り保護することを目標とする。これを実現するため、前年度に引き続き、飼育管理能力の向上のための組織の改変、人員の確保および施設増改築を実施する。

②の事業では、犬猫合計1,300頭を新しい飼い主に譲渡することを目標とする。なお、飼育管理能力の指標として、譲渡までの犬の滞在日数30日以下、死亡率5%以下、猫の滞在日数45日以下、死亡率10%以下を目標とする。また、うち概ね生後半年以上の少年犬および成犬の譲渡目標を20頭とする。

③の事業では、従前から発信していた情報の見直しを行い、時代に即した情報を届けることを目標とする。

④の事業では、①で保護した動物のほか、130件の外来不妊手術実施を目標とする。

⑤の事業では、従前のおりより良い情報発信を目標とする。

⑥の事業では、新規事業を立ち上げるための準備を行う。

⑦の事業においては、単に収益をあげるのではなく、事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。

#### 2 事業の実施に関する事項

##### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設(アニマルシェルター)を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	12名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の7自治体。

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	10名	・犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	・犬猫を保護する団体や個人。 ・130来不妊手術実施を目標とする。
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数
⑦損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	2名

以上

2017年5月20日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート  
2017年度 事業計画書 (参考資料)

**<この事業計画書について>**

行政機関からの指導もあり、昨年度から事業計画書を定型に準じるものとなりました。  
しかし、そのみでは皆様にお届けするメッセージとして不十分なため、参考資料として本事業計画書を掲載いたします。

**<犬と猫の保護と譲渡について>**

本年度は犬 550 頭、猫 750 頭の合計 1300 頭の譲渡を目標とします。  
なお、飼育管理能力の指標として、譲渡までの犬の滞在日数 30 日以下、死亡率 5%以下、猫の滞在日数 45 日以下、死亡率 10%以下を目標とします。  
また、犬の譲渡においては、概ね生後半年以上の少年犬および成犬を 20 頭以上譲渡することを目標とします。

本年度の譲渡目標は従前の 1500 頭を下回るものですが、殺処分解決の課題は、当団体がこれまで主に保護してきたような比較的譲渡しやすい子犬・子猫から、譲渡まで時間や手間のかかる成犬・成猫にシフトしつつあります。

ライフポートの施設でも、ご縁がないまま成長した成犬と少年犬 43 頭、成猫 45 頭を抱えており限られたスペースをひっ迫しています。こうした動物たちをいかに譲渡し、または施設内で居場所を作っていくかということが大きな課題になっています。

2013 年以來 1500 頭の譲渡回復を見ないまま目標を下げることになりましたが、このまま計画上の数字だけにこだわり続けることは本質を見失うことになり、かえって活動の衰退を招くと判断しました。今本当にすべきことを考え、実行することで、活動のステップアップに注力したい考えです。

**<成犬・成猫の譲渡促進について>**

施設で大きくなってしまった子たちを譲渡して幸せになってもらうための施策を本格化します。  
具体的には施設のレイアウト、見せ方の変更、しつけの実施、自宅預かりボランティアの実施などを具体化して参ります。

### <犬のマイクロチップ全頭導入について>

前記の通り殺処分解決の課題における成犬の重みが大きくなっています。

当団体でも成犬を譲渡する機会が増えていますが、その多くが元々怖がりの犬のため、譲渡先からの脱走事例が散見されるようになりました。

万が一保健所に持ち込まれてしまった場合に少しでも早く、そして確実に飼い主の元に帰れるよう、マイクロチップの全頭導入を進めて参ります。

### <外来不妊手術について>

前年度の目標 100 件（実績 120 件）を拡大し、年間 130 件の外来不妊手術実施を目標とします。

外来不妊手術については、附属動物病院のキャパシティの問題で希望者を待たせている状況のため、一般動物病院のご協力による獣医師の派遣を受けるなどして目標を達成したい考えです。

### <施設の増改築と環境改善について>

昨年 9 月に竣工した新館を稼働することで下記を実現します。

- 収容能力の拡大 ※収容頭数に関わらず、相対的に衛生管理能力も向上します。
- 成犬たちをより良く見てもらうためのレイアウト変更や環境改善を実施します。
- 終生飼育の猫たちが悠々自適に暮らせるキャットランスペースを作ります。

### <幹事職員の募集について>

昨年度から幹事候補生の募集を開始し、何名かの方と面接をする機会を得ることができました。

その後 1 名を採用しましたので、今後活躍してもらうために試行錯誤しながら進めて参ります。

職歴豊かな有能な方に専門性を発揮してもらうことと、未熟だけど熱意のある若者と一緒に成長していくことの両面で、これからも活動の中核となる人材の確保を続けて参ります。

### <人員の確保と現場組織の改変について>

今年度の譲渡目標である 1300 頭の譲渡に対しても人員が不足していることに変わりはありませんので、採用やその後の教育の強化を進めて参ります。

また、昨年度に開始した組織改編も引き続き進めていきます。

昨年度は「犬の飼育管理」「猫の飼育管理」「事務・総務」を統合してフラット化しましたが、今年度

はフラット化した現場でスタッフが責任をもって仕事にあたり、成長していけるよう、教育・評価の強化を行います。

### <ボランティアの活用について>

当団体は有給職員を中心に活動する団体ですが、ボランティアさんの活躍によってより多くの命を救うことができます。本年度は主に次の二つのテーマに取り組んで参ります。

#### ●ミルクボランティア制度のリニューアル実施。

ボランティアさんにご自宅で赤ちゃん犬猫を預かっていただくことで、施設のキャパシティを超える動物たちを救う試みです。当団体では活動当初から実施していますが、行政機関による同様の試みも増えてきたこの機会に内容を見直して実施します。

#### ●成犬の自宅預かりボランティア

前記の通り施設では大きくなってしまった成犬の問題を抱えています。

こうした課題に対応するため自宅預かりボランティアに着手します。自宅に預かっていただくことには、犬にとっても救命活動にとっても様々なメリットがあります。

ただし、成犬の扱いには咬傷事故や脱走などのリスクがありますので、対策も講じた上で慎重に実施して参ります。

### <コンテンツの充実について>

前年度に引き続き、犬猫の飼育やしつけのコンテンツを時代に即したものの、事業計画に沿ったものにリニューアルして参ります。

### <ペット保険代理業について>

昨年度はトライアルとしてペット保険代理業をスタートしました。

主な目的は収益のためではなく知見のため、というスタンスは変わりませんが、必要な人が必要なときに必要な補償を受けられるよう、加入募集にもう一步踏み込んでいく予定です。

### <新規事業の開拓について>

当団体は創業以来 15 年間、保健所からの保護と譲渡による救命をひたすら行ってきた団体です。

今では当団体だけでも年間 1000 頭以上、全国に目を向ければ様々な団体や個人が同様の活動を行い

多くの命が救われている貴重な活動です。

それはこれからも変わりませんが、殺処分をゼロにするためには多角的な仕組みづくりが必要です。振り返れば、今ではすっかり当たり前になった保健所からの保護と譲渡活動も、創業者が試行錯誤した末にたどり着いた一つの答えでした。

まだ「次の答え」が何かは見えていませんが、本年度以降は様々な施策・企画を通して「未来では当たり前」の活動を模索して参ります。

以上が2017年度の事業計画です。

良い結果を出せるように進めて参りますので、皆様のご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

理事長 稲葉友治